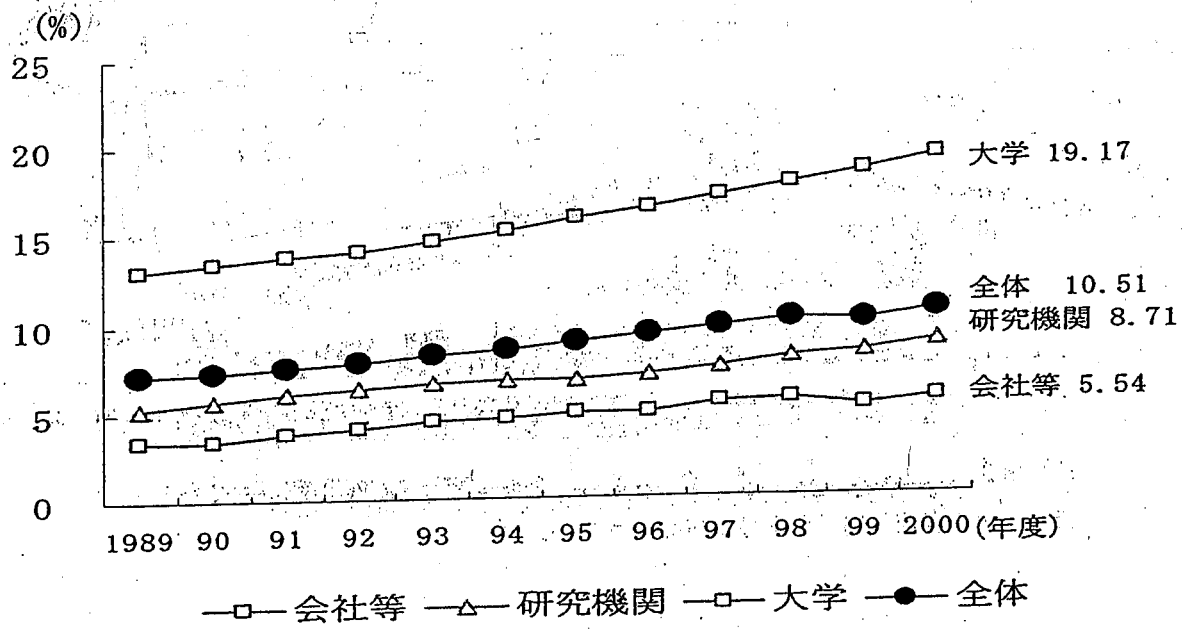


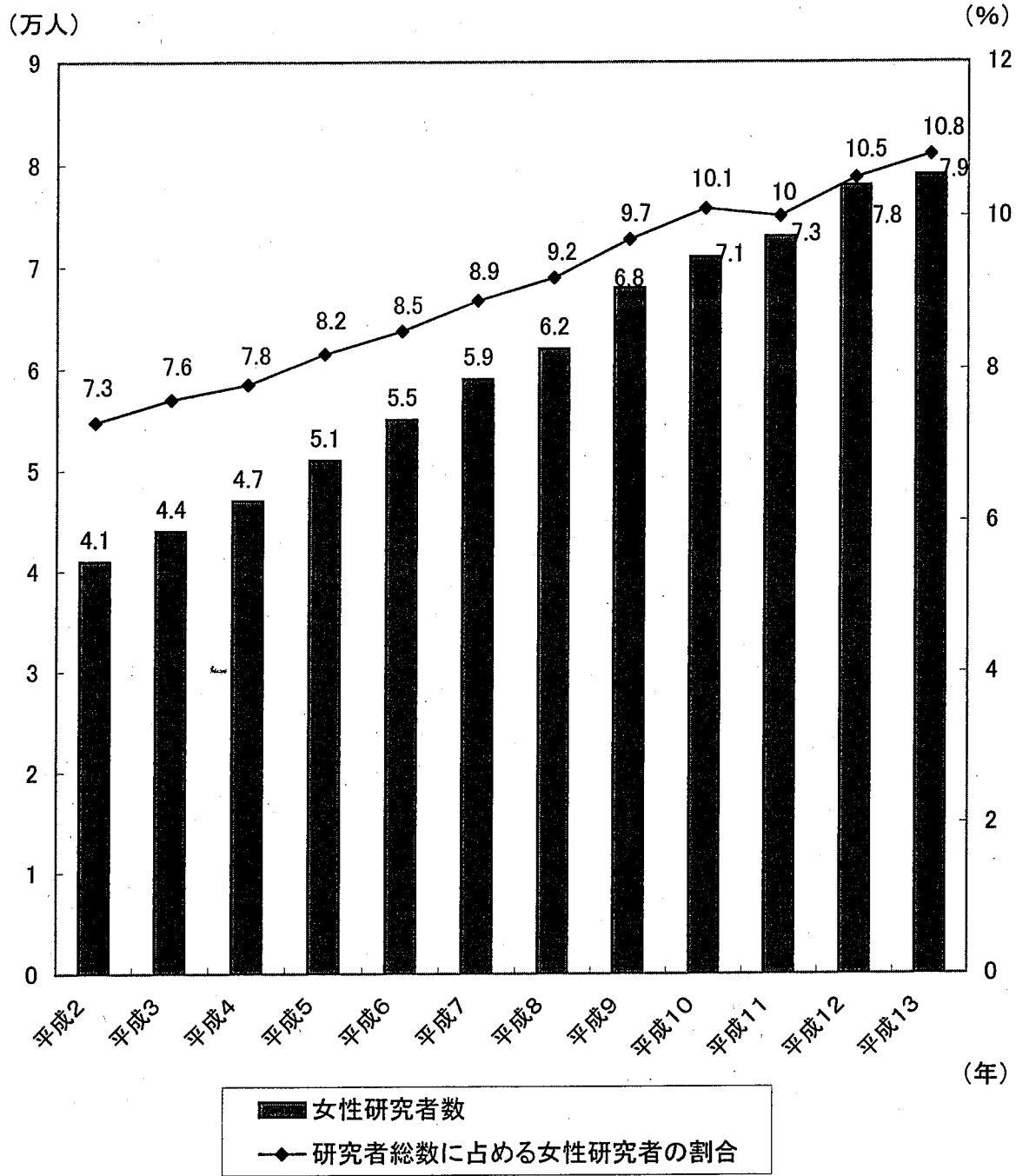
基礎データ集

研究セクターごとの女性研究者の割合



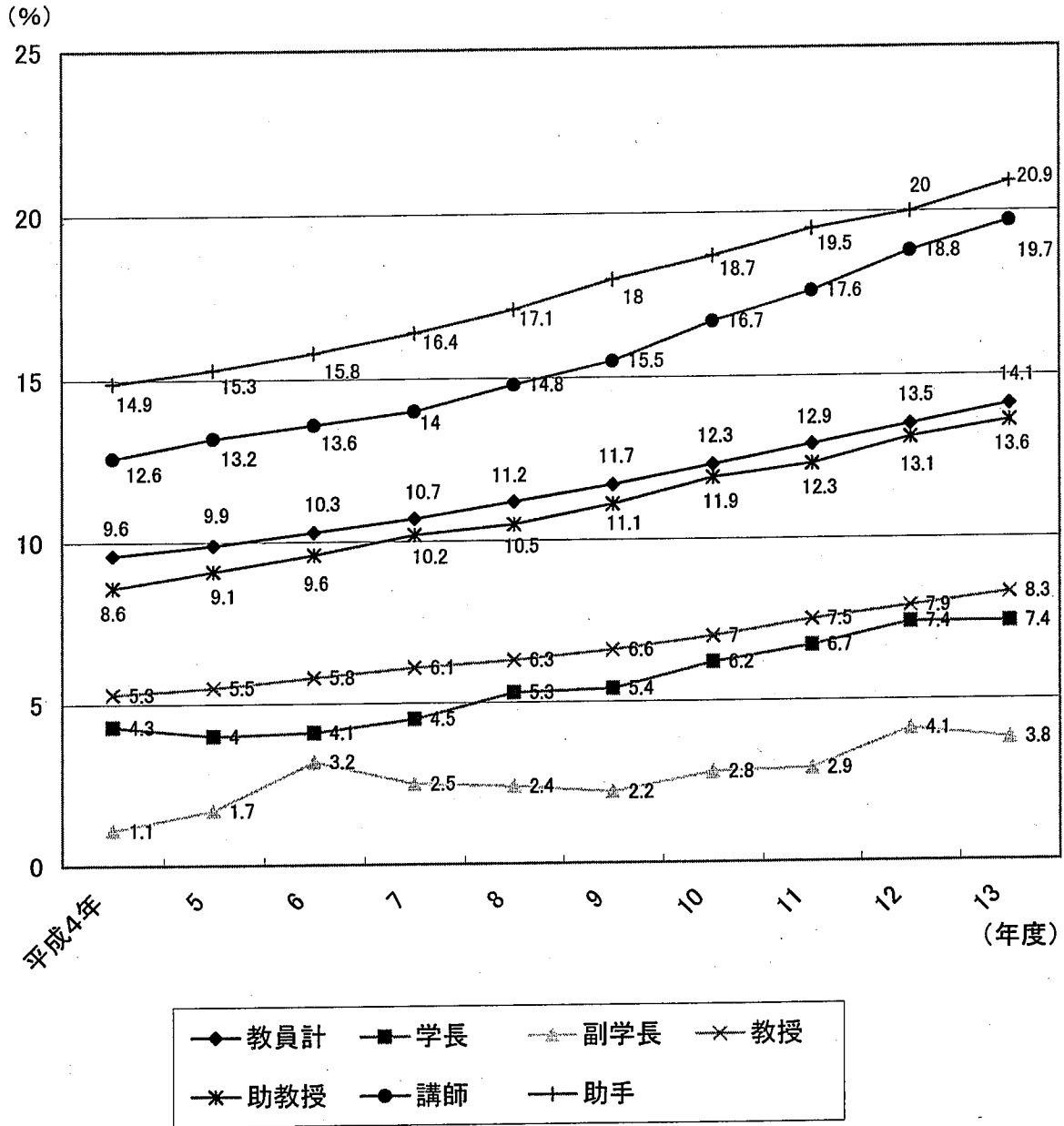
資料：総務省「科学技術研究調査報告」

女性研究者数と研究者総数に占める女性研究者の割合の推移



資料:総務省統計局「科学技術研究調査報告」

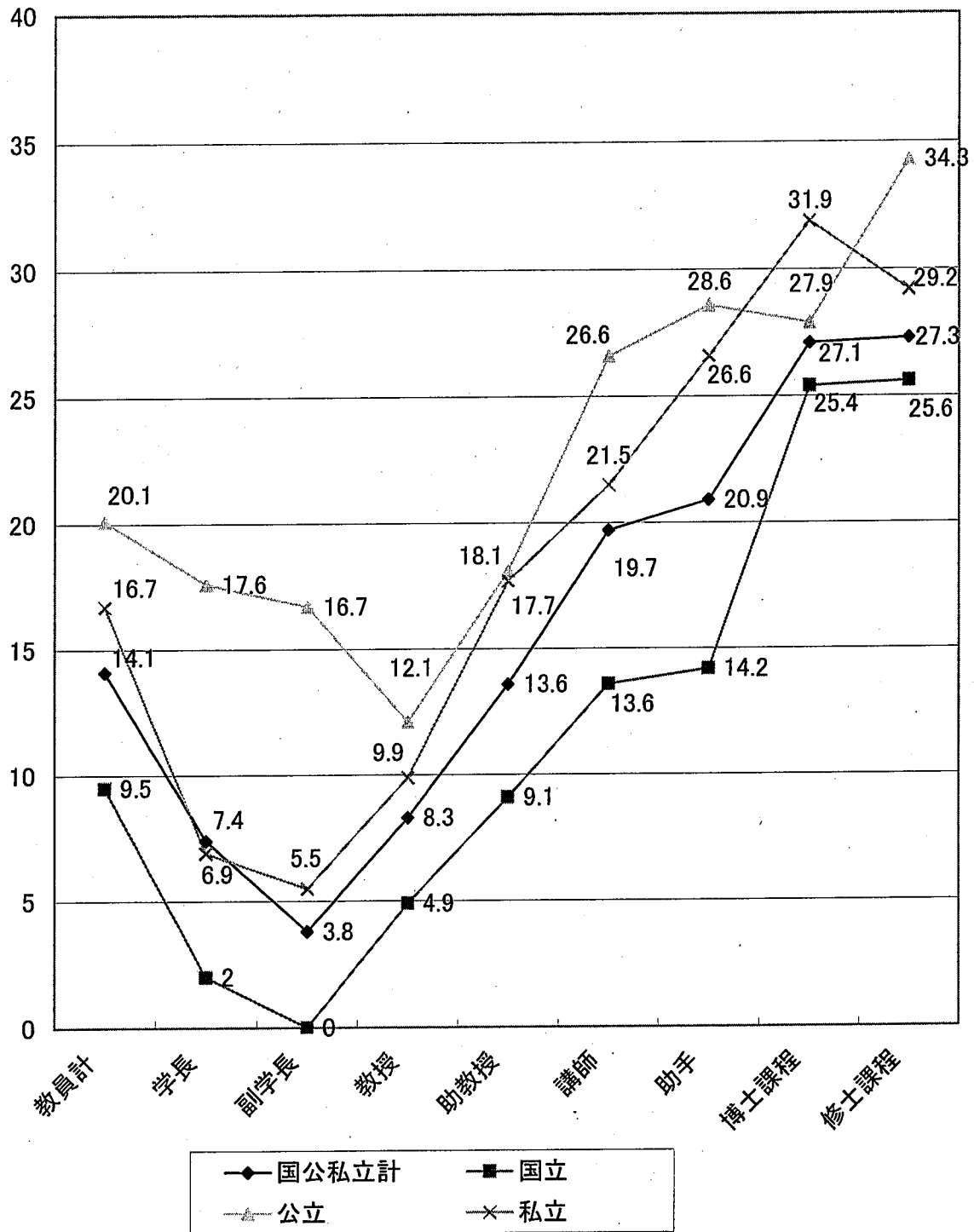
学長、副学長、教授等における女性の割合



資料:文部科学省「学校基本調査」

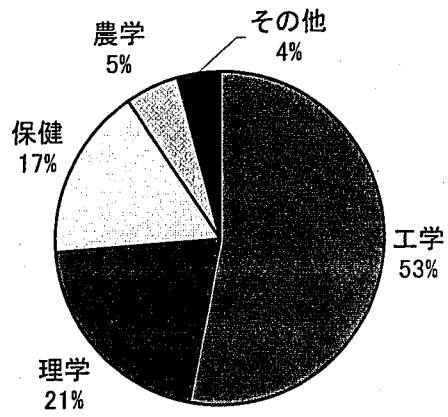
国公立大学別女性教員等割合

(%)

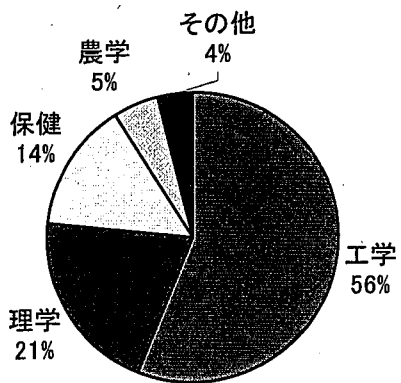


資料: 文部科学省「学校基本調査」

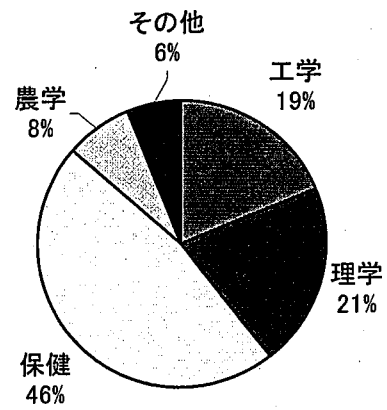
自然科学系専門別研究者割合(男性+女性)



(男性)

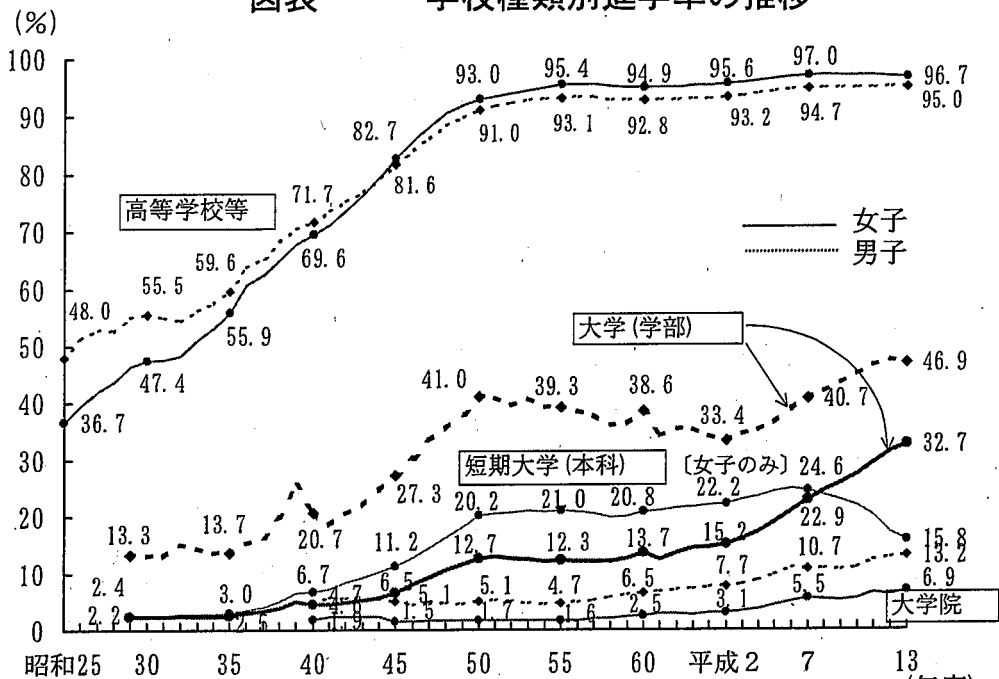


(女性)



資料:総務省「科学技術研究調査報告」

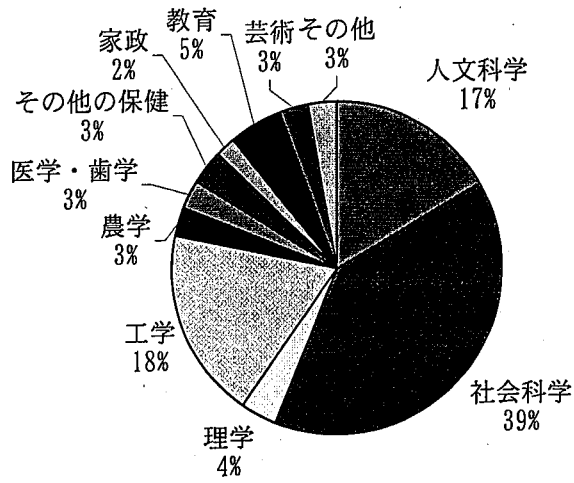
図表 学校種類別進学率の推移



注：(1) 高等学校等：中学校卒業者のうち、高等学校等の本科・別科、高等専門学校(年度)進学した者（就職進学した者を含み、浪人は含まない。また、高等学校の通信課程（本科）への進学者を除く。）の占める比率。
 (2) 大学（学部）・短期大学（本科）：浪人を含む。大学学部・短期大学本科入学者数（浪人を含む。）を3年前の中学校卒業者数で除した比率。
 (3) 大学院：大学学部卒業者のうち、ただちに大学院に進学した者の比率（医学部、歯学部は博士課程への進学者）。

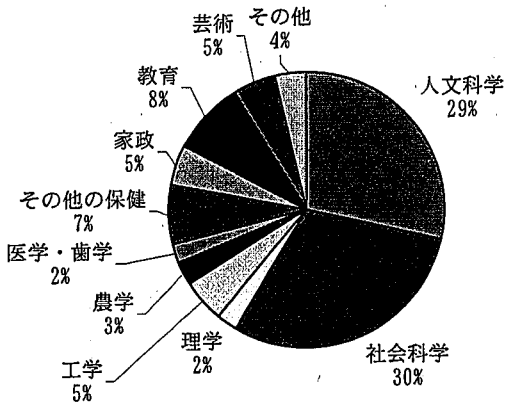
資料出所：文部科学省「学校基本調査」

図表 専攻分野別学生割合
 総計 (男+女)

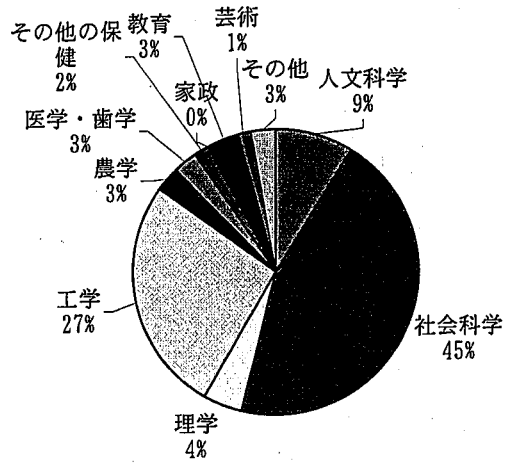


■ 人文科学 ■ 社会科学 □ 理学 □ 工学 ■ 農学 □ 医学・歯学 ■ その他の保健 □ 家政 ■ 教育 ■ 芸術 □ その他

(女性)

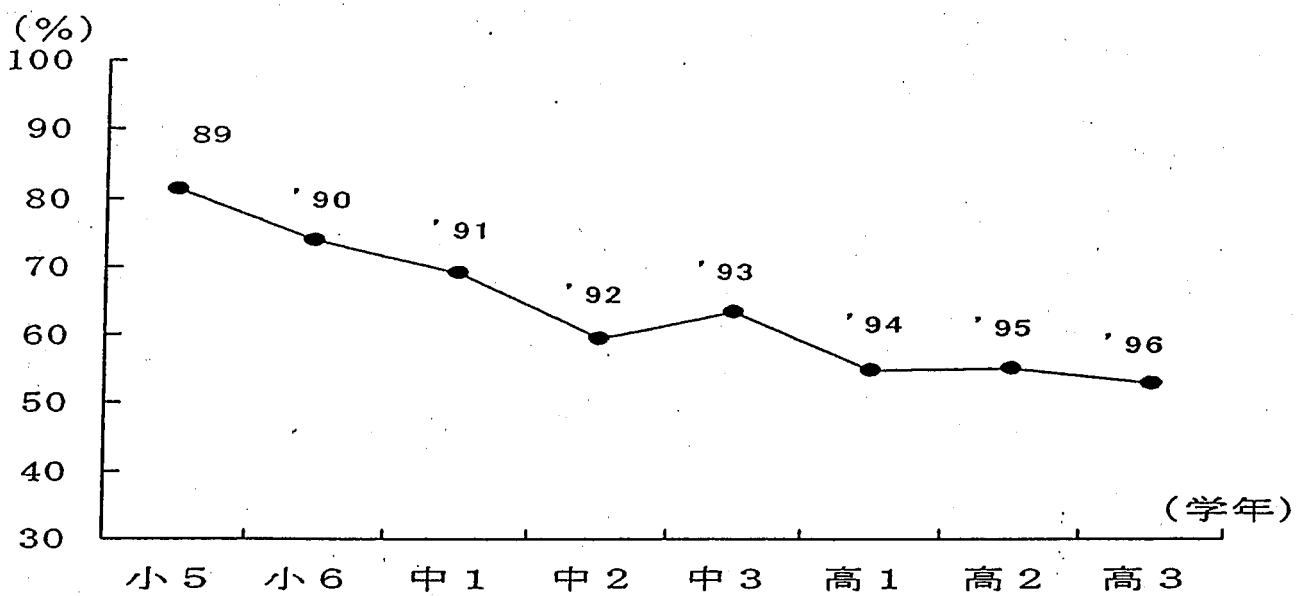


(男性)



資料：文部科学省「学校基本調査」

小中高校生の科学技術に対する関心「理科はおもしろいと思う」



注) 1. 「そうだと思う」、「どちらかといえばそうだと思う」の回答を選択した比率。

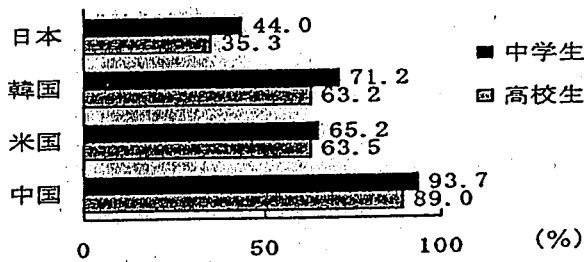
2. '89等は追跡調査実施年度。

資料：文部省国立教育研究所

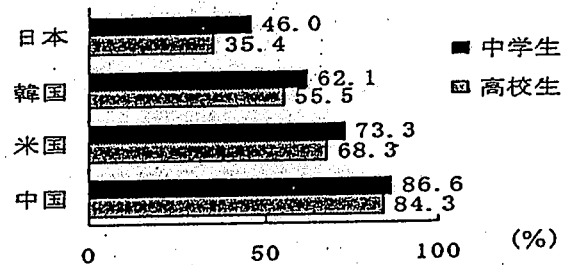
「数学的・科学的能力や態度の小中高・社会人における発達・変容に関する研究（平成10年）」

中高生の21世紀の夢に関する国際比較

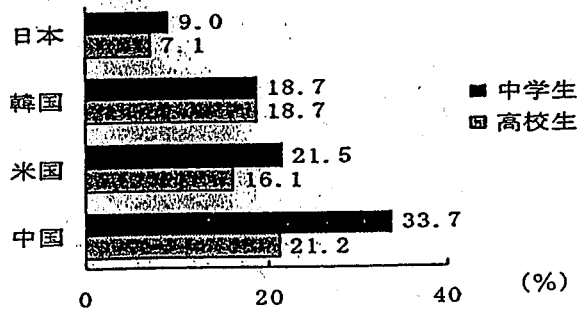
①21世紀の社会 人類にとって21世紀は希望のある社会になる



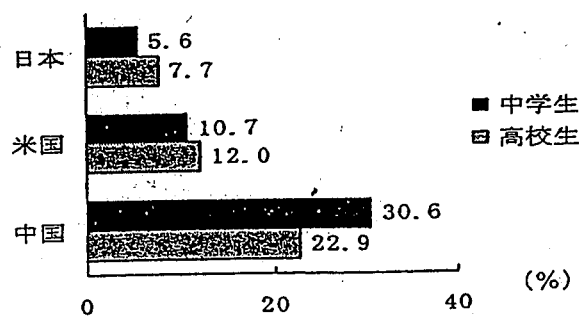
②21世紀の社会 科学の進歩で、人間はより幸福になる



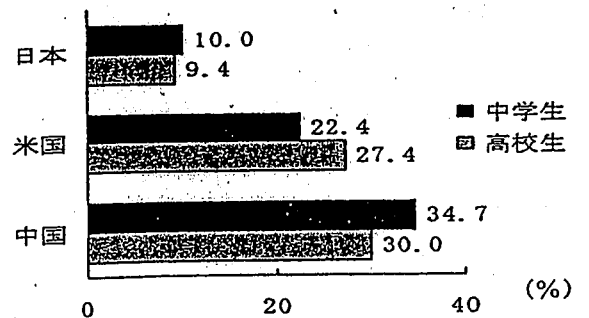
③人生目標 科学の分野で新しい発見をする



④将来就きたい職業 学者 (大学教授など)



⑤将来就きたい職業 先端的技术者



資料：(財)日本青少年研究所 HP 「21世紀の夢に関する調査報告書 (1999)」

国際教育到達度評価学会(I E A), 国際数学・理科教育調査(中学校)

数学の各国別成績

第1回(昭和39年・12か国)	第2回(昭和56年・20か国)
国 平均総得点	国/地域 平均正答率
イスラエル 32.3 点	日本 62.3 %
日本 31.2	オランダ 57.4
ベルギー 30.4	ハンガリー 56.3
西ドイツ 25.5	フランス 52.6
イギリス 23.8	ベルギー(FI) 52.4
スコットランド 22.3	カナダ(BC) 51.8
オランダ 21.4	スコットランド 50.8
フランス 21.0	ベルギー(Fr) 50.0
オーストラリア 18.9	香港 49.5
アメリカ 17.8	カナダ(ON) 49.4
フィンランド 16.1	イギリス 47.4
スウェーデン 15.3	フィンランド 46.9
	ニュージーランド 45.6
(中学校2年:70点満点)	アメリカ 45.5
	イスラエル 44.7
	タイ 42.3
	スウェーデン 41.6
	ルクセンブルク 37.6
	ナイジェリア 33.9
	スワージーランド 31.6
	(中学校1年)
	ベルギー(FI):フラマン語の地域
	ベルギー(Fr):フランス語の地域
	カナダ(BC):
	ブリティッシュコロンビア州
	カナダ(ON):オンタリオ州

理科の各国別成績

第1回(昭和45年・18か国)	第2回(昭和58年・26か国)	第3回(平成7年・41か国)
国/地域 平均総得点	国/地域 平均正答率	国/地域 平均得点
日本 31.2 点	日本 64.3 %	シンガポール 607 点
ハンガリー 29.1	韓国 64.0	チェコ 574
オーストラリア 24.6	フィンランド 63.8	日本 571
ニュージーランド 24.2	スウェーデン(4学年) 61.1	韓国 565
西ドイツ 23.7	カナダ(仏語圏) 60.4	ブルガリア 565
スウェーデン 21.7	ハンガリー 60.2	オランダ 560
アメリカ 21.6	カナダ(英語圏) 57.2	スロベニア 560
スコットランド 21.4	イタリア 55.8	オーストリア 558
イギリス 21.3	アメリカ 54.8	ハンガリー 554
ベルギー(FI) 21.2	オーストラリア 53.5	イギリス 552
フィンランド 20.5	スウェーデン(3学年) 53.4	ベルギー(FI) 550
イタリア 18.5	ノルウェー 52.9	オーストラリア 545
オランダ 17.8	ポーランド 49.7	スロバキア 544
タイ 15.6	イスラエル 49.6	ロシア 538
ベルギー(Fr) 15.4	イギリス 48.8	アイルランド 538
チリ 9.2	シンガポール 46.8	スウェーデン 535
イラン 7.8	香港 46.6	アメリカ 534
インド 7.6	フィリピン 39.6	ドイツ 531
(中学校3年:80点満点)	ナイジェリア 32.9	カナダ 531
ベルギー(FI):フラマン語の地域	(小学校5年)	ノルウェー 527
ベルギー(Fr):フランス語の地域		ニュージーランド 525
		タイ 525
		イスラエル 524
		香港 522
		スイス 522
		スコットランド 517
		スペイン 517
		フランス 498
		ギリシャ 497
		アイスランド 494
		ルーマニア 486
		ラトビア 485
		ポルトガル 480
		デンマーク 478
		リトアニア 476
		ベルギー(Fr) 471
		イラン 470
		キプロス 463
		クウェート 430
		コロンビア 411
		南アフリカ 326

(中学校1年)
*得点は、全児童の平均値が500点、標準偏差が100点となるよう算出されている。
ベルギー(FI):フラマン語の地域
ベルギー(Fr):フランス語の地域

(中学校2年)
*得点は、全児童の平均値が500点、標準偏差が100点となるよう算出されている。
ベルギー(FI):フラマン語の地域
ベルギー(Fr):フランス語の地域

国際教育到達度評価学会(IEA), 国際数学・理科教育調査

教育課程実施状況に関する調査

理科に対する意識—強くそう思う, またはそう思う生徒の割合

(第3回調査(平成7年 41か国)、中学校2年)

	理科の勉強 は楽しい	理科は たいく つだ	理科は やさし い	理科は生活 の中で大切	将来、科学を 使う仕事がし たい
日 本	53 %	33 %	15 %	48 %	20 %
オーストラリア	62	46	34	71	39
オーストリア	54	36	54	75	27
ベルギー(Fr)	77	36	42	80	42
カナダ	71	41	43	80	46
コロンビア	94	17	78	97	79
キプロス	77	31	50	81	41
イギリス	82	24	23	81	47
香 港	68	31	38	77	35
イ ラ ン	93	26	81	89	80
アイルランド	69	30	26	71	40
イスラエル	67	33	43	64	38
韓 国	40	33	20	74	26
ク ウェー ト	87	24	74	92	72
ニュージーランド	71	38	35	75	39
ノ ル ウェー	75	37	48	78	36
スコットランド	81	25	29	80	49
シンガポール	90	15	42	93	61
ス ペ イ ン	69	31	41	87	56
ス イ ス	59	34	47	67	29
タ イ	87	16	44	96	79
ア メ リ カ	73	39	53	80	50
国際平均値	73	31	43	79	47

(国内調査の実施及び資料作成: 国立教育研究所)

小学校

		平均通過率(正答率)
国語	5年	80.0 %
(平成5年度)	6年	79.1
社会	5年	74.9
(平成6年度)	6年	73.6
算数	5年	66.8
(平成5年度)	6年	64.6
理科	5年	72.2
(平成6年度)	6年	70.6

中学校

		平均通過率(正答率)
国語	1年	74.8 %
(平成6年度)	2年	70.9
	3年	71.7
社会	1年	45.6
(平成7年度)	2年	50.0
	3年	68.1
数学	1年	58.6
(平成6年度)	2年	63.2
	3年	61.1
理科	1年	54.1
(平成7年度)	2年	57.9
	3年	61.1
外国語	1年	63.9
(平成6年度)	2年	65.1
	3年	56.8

OECD生徒の学習到達度調査(PISA)

《2000年調査国際結果の要約》

<調査の概要>

- * 参加国が共同して国際的に開発した学習到達度問題を15歳児を対象として実施する。
- * PISA調査は、2000年に最初の本調査を実施し、以後3年ごとのサイクルで調査が実施される。
- * PISA調査では、読解リテラシー(読解力)、数学的リテラシー、科学的リテラシーの3分野を調査する。
- * 各調査サイクルでは3分の2のテスト時間を費やす主要分野を重点的に調べ、他の二つの分野については概括的な状況を調べる。2000年調査は読解リテラシー(読解力)、2003年調査は数学的リテラシー、2006年調査は科学的リテラシーが主要分野である。
- * 2000年調査には32か国(OECD加盟国28か国、非加盟国4か国)で約26万5,000人の15歳児が調査に参加した。(オランダの結果は学校の参加率が国際基準を満たしていないため、分析結果からは除外された。)

【調査の内容】

- 2000年調査では、読解リテラシー(読解力)を中心分野とし、数学的リテラシー、科学的リテラシーをあわせた3分野を調査した。
- PISA調査では、義務教育修了段階の15歳児の生徒が持っている知識や技能を、実生活の様々な場面で直面する課題にどの程度活用できるかどうかを評価する。(特定の学校カリキュラムがどれだけ習得されているかをみるものではない。)
- PISA調査では、思考プロセスの習得、概念の理解、及び様々な状況でそれらを生かす力を重視している。

【調査対象】

- わが国では、15歳児に関する国際定義に従って、調査対象母集団を「高等学校本科全日制学科」の1年生、約140万人と定義し、層化二段階抽出法によって、調査を実施する標本を決定した。その結果、全国の135学科(133校)、約5,300人の生徒が調査に参加した。

2. 数学的リテラシー及び科学的リテラシーの結果

(1) 数学的リテラシー

数学的リテラシーとは、「数学が世界で果たす役割を見つけ、理解し、現在及び将来の個人の生活、職業生活、友人や家族や親族との社会生活、建設的で関心を持った思慮深い市民としての生活において確実な数学的根拠にもとづき判断を行い、数学に携わる能力」である。

数学的リテラシー得点は、わが国は557点と参加国中で最も高い。以下、韓国、ニュージーランド、フィンランド、オーストラリアと続いている。ただしわが国の得点と韓国、ニュージーランドの得点とには統計的な有意差はない。

数学的リテラシー得点の男女差については、31か国中14か国は統計的にも有意差があり、男子の方が女子より高い。わが国は男子が女子より8点高いが、統計的な有意差はない。

(2) 科学的リテラシー

科学的リテラシーとは、「自然界および人間の活動によって起こる自然界の変化について理解し、意志決定するために、科学的知識を使用し、課題を明確にし、証拠に基づく結論を導きだす能力」である。

科学的リテラシー得点を前掲の表6でみると：

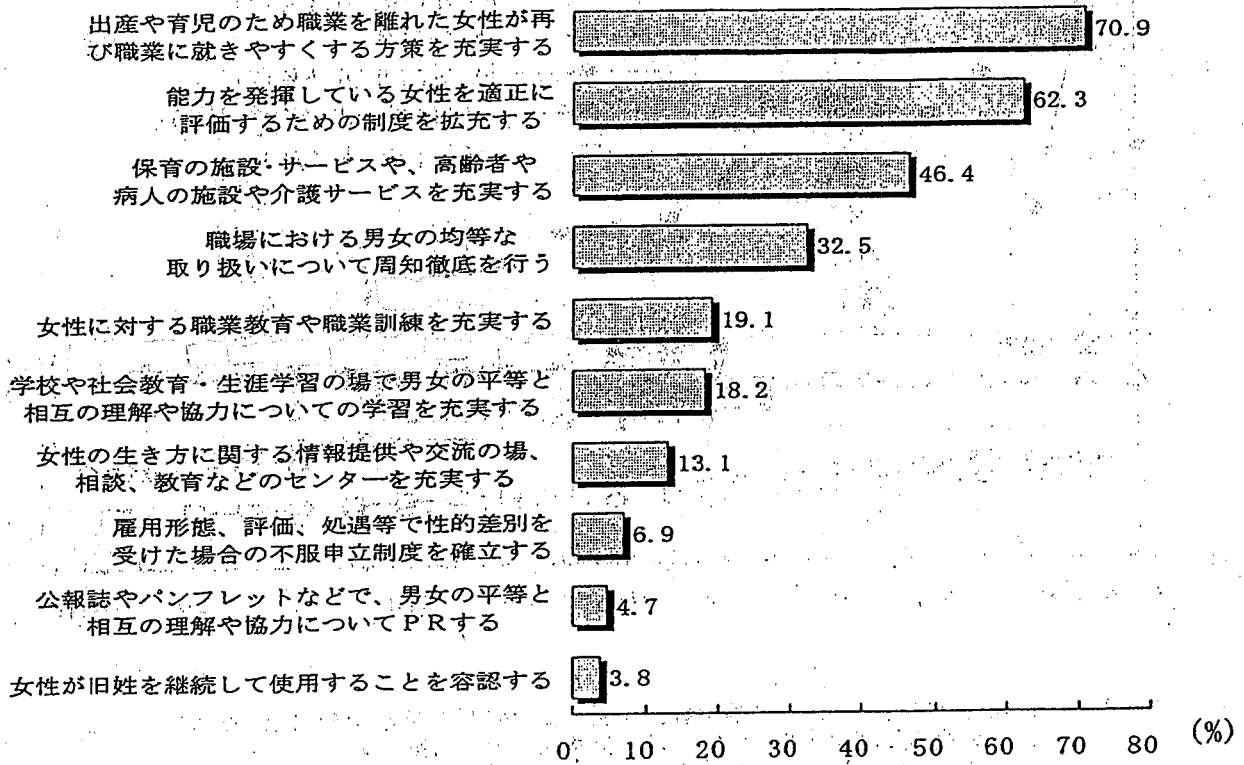
- 科学的リテラシー得点は、わが国は550点で、韓国の552点に次いで平均得点が高い。しかし、わが国の得点と韓国の得点とは統計的に有意差がないためトップグループであるといえる。

- 科学的リテラシー得点の男女差については、男女差の最も大きい国は韓国で、男子の方が女子より19点高い。わが国は女子が554点に対して男子が547点で、女子が7点高いが、統計的には有意差はない。

数学的リテラシー及び科学的リテラシーの平均得点の国際比較

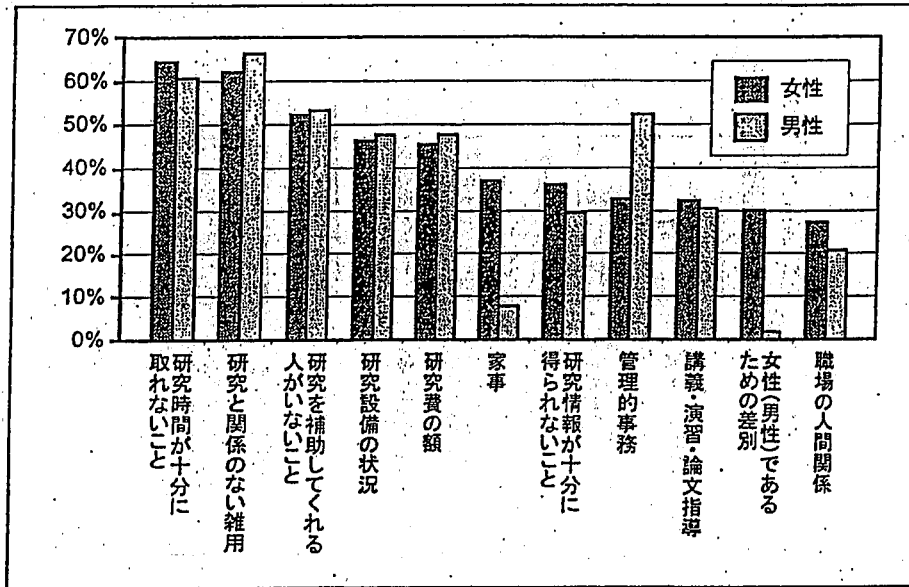
	数学的リテラシー		科学的リテラシー	
1	日本	557点	韓国	552点
2	韓国	547	日本	550
3	ニュージーランド	537	フィンランド	538
4	フィンランド	536	イギリス	532
5	オーストラリア	533	カナダ	529
6	カナダ	533	ニュージーランド	528
7	スイス	529	オーストラリア	528
8	イギリス	529	オーストリア	519
9	ベルギー	520	アイルランド	513
10	フランス	517	スウェーデン	512
11	オーストリア	515	チェコ	511
12	デンマーク	514	フランス	500
13	アイスランド	514	ノルウェー	500
14	リヒテンシュタイン	514	アメリカ	499
15	スウェーデン	510	ハンガリー	496
16	アイルランド	503	アイスランド	496
17	ノルウェー	499	ベルギー	496
18	チェコ	498	スイス	496
19	アメリカ	493	スペイン	491
20	ドイツ	490	ドイツ	487

男女共同参画を推進する上で必要なこと



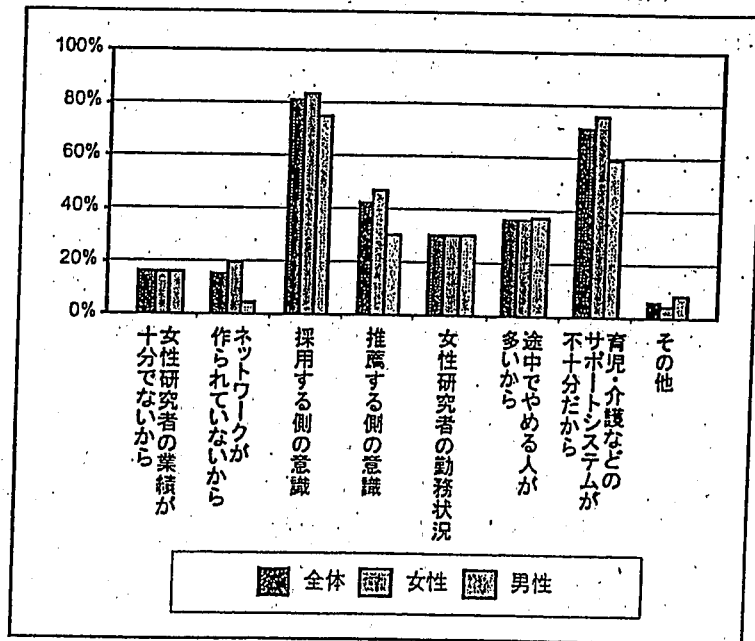
資料：科学技術庁「民間企業の研究活動に関する調査（平成11年度）」

研究活動を阻害する要因（女性における上位12項目）



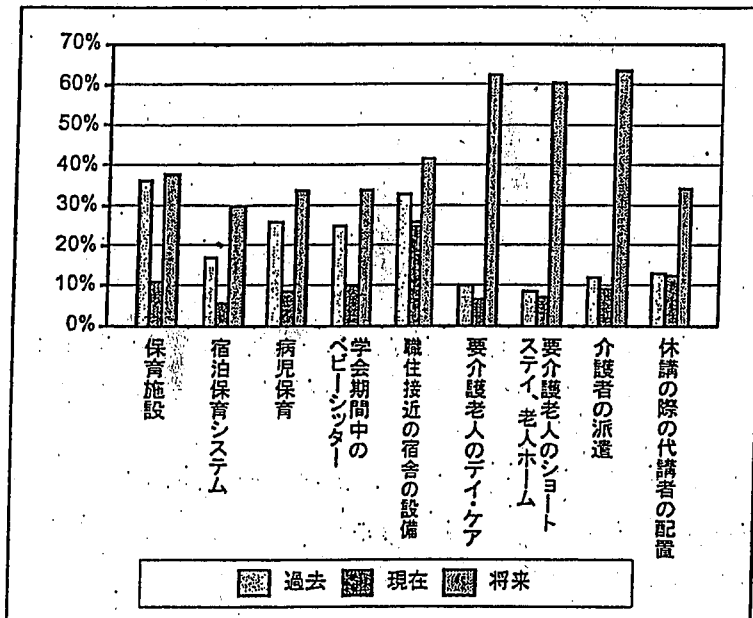
出典：JAICOWS「科学研究者の環境に関する調査」(1997)

女性研究者が常勤職を得られない理由



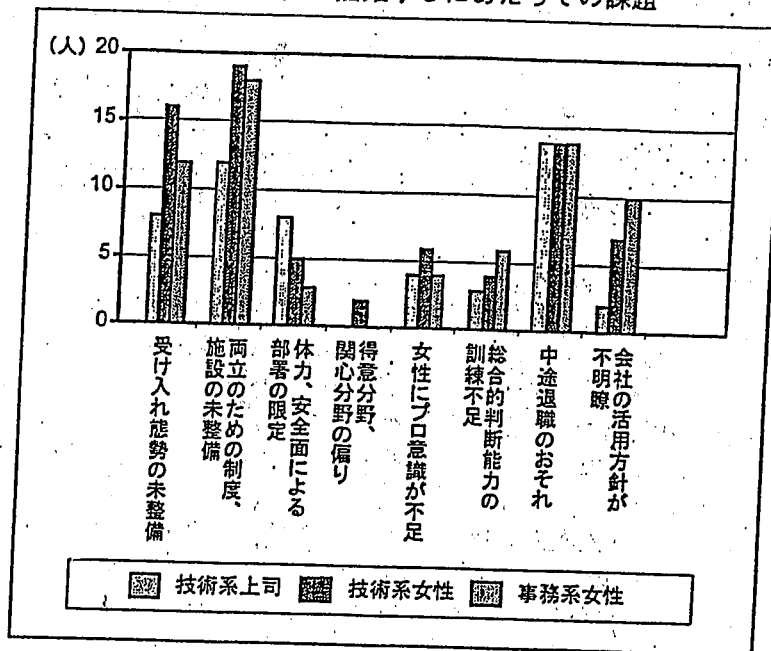
資料：JAICOWS「科学研究者の環境に関する調査」(1997)

研究遂行に必要な支援制度



出典：JAICOWS「科学研究者の環境に関する調査」(1997)

女性が活躍するにあたっての課題



出典：科学技術庁「企業における女性研究者・技術者の就業状況に関する事例調査」(1999)